

平成21年5月7日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2008

課題番号：19560616

研究課題名（和文）景観法の併用による伝建地区の広域景観コントロール手法の考察

研究課題名（英文）Study on the Landscape Control Method of the Preservation Districts of Historic Buildings by the Combination of Landscape Law

研究代表者 浅野 聡（Satoshi Asano）

三重大学・大学院工学研究科・准教授

研究者番号：70231892

研究成果の概要：

本研究は、既往研究において十分に明らかにされてこなかった重伝建地区の広域景観特性および現行の広域景観コントロール手法の全体像を明らかにするとともに、今後のコントロール手法を提案した点に研究意義がある。主な研究成果は、地形条件と市街地形態の組み合わせから広域景観特性として13類型を導き出したこと、13類型と現行の景観コントロール手法の相関性として4類型を導き出すとともに類型ごとの今後の広域景観コントロール手法を提案したこと等である。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：伝統的建造物群保存地区、広域景観、歴史的景観、景観法、景観条例、景観コントロール

1. 研究開始当初の背景

(1) 伝建地区および周辺地区の広域景観コントロール上の課題

伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）は、伝統的建造物群が良好に現存する地区を中心にして範囲設定されるため、例えば城下町のように規模の大きな市街地では、城下町地区全体に渡って伝統的建造物群が存在していることは皆無であるため、かつての歴史的市街地において伝統的建造物群が残る一部の地区は伝建地区指定されるものの、その周辺

には現代化の進んだ歴史的市街地が存在し、伝建地区との調和をどのように図るかが大きな課題となっている。また特に地方都市においては、歴史的市街地は周辺の自然景観（河川・里山・農地など）と深く関わりながら景観形成されており、周辺地区の景観保全と一体化して取り組めるかが課題である。

このような状況下、2004年度には景観法が制定され、景観法によって制度化された様々な景観施策は伝建地区及び周辺地区においても適用可能となり、伝建地区制度との併用

による新たな景観コントロールの途が開かれることとなった。

(2) 申請者による既往研究成果

既往研究成果においては、市町村による伝建地区の運用状況には違いが見られることを明らかにしているが、特にその大きな点の1つは、伝建地区とその周辺地区を含んだ広域景観形成の視点から伝建地区が市街地内の「陸の孤島」にならないように配慮しているかどうかによって生じている。具体的には、市町村景観条例等を制定して周辺地区に対する広域景観コントロール施策（景観形成地区等の指定）を実施している地区と実施していない地区とに大別することが出来ることである。周辺地区は、都市計画区域内の伝建地区においては市街地景観が、都市計画区域外の場合は自然景観が主なコントロール対象となっている。

また歴史都市における伝建地区と周辺地区からなる広域景観特性は、地形条件（山腹型・谷間型・山麓型・平地型・海辺型・島型）と市街地形態（線的町並連続型・線的町並分散型・面的町並連続型・面的町並分散型）の組み合わせから、10 類型を導き出している。

2. 研究の目的

(1) 本研究はこれらの既往研究成果を踏まえて、制度創設以来、大きな制度改正がなされていない伝建地区制度を対象に、伝建地区及び周辺地区からなる広域景観形成の視点の有無によって市町村の制度運用に違いが見られることに着目して、周辺地区における広域景観コントロール施策の運用現況及びその効果と課題について明らかにすると共に、伝建地区を有する歴史都市の地形条件と市街地類型の組み合わせから広域景観特性を類型化し、類型ごとに景観法・市町村景観条例・伝建地区制度の三者の効果的な併用の在り方を検討し、その広域景観特性を活かして伝建地区と周辺地区を一体的・総合的に景観コントロールする新しい手法について考案することを目的としている。

(2) 具体的には、以下の通りである。

①全伝建地区78地区を対象にして、伝建地区の周辺地区に対する広域景観コントロール手法の実施の有無及び具体的な制度内容について把握する。

②①において把握された景観コントロール手法の制度内容を類型化し、その全体像を明らかにする。

③次に伝建地区と周辺地区による広域景観特性について、当該都市の地形条件と市街地形態の組み合わせから類型化すると共に、類型ごとの広域景観特性について把握する。

④そして①で把握した周辺地区の広域景観コントロール手法の適用の傾向について、③で把握した類型ごとに分析し、両者の相関性や

類型ごとの特徴と課題について明らかにする。また積極的に取り組んでいる地区を先進地区として選定する。

⑤先進地区を対象にして現地調査（ヒアリング調査・資料収集・フィールド調査）を行い、現状の景観コントロール手法の効果と課題を明らかにする。

⑥新たに制定された景観法の制度内容を整理し、歴史的市街地に適用できる制度内容を把握する。

⑦以上の分析結果を踏まえて、限定された地区だけを対象とする伝建地区制度の限界について指摘すると共に、類型ごとに景観法・市町村景観条例・伝建地区制度の三者の効果的な併用の在り方を検討し、その広域景観特性を活かして伝建地区と周辺地区を一体的・総合的に景観コントロール出来る新しい広域景観コントロール手法について考案する。

3. 研究の方法

(1) 全伝建地区79地区を対象にしたアンケート調査・資料収集・ヒアリング調査

伝建地区の周辺地区に対する広域景観コントロール手法の実施の有無及び具体的な制度内容（条例名・地区名・コントロール内容など）について把握するために、全伝建地区79地区（2007年度現在）を対象にしてアンケート調査を行う。併せて関連資料（伝建地区の最新条例・計画・事業に関するもの・同様に景観条例に関する最新のもの・研究対象地区の地形図の収集も行う。アンケート調査に関しては、必要に応じて電話による補足のヒアリング調査も行う。

(2) 景観コントロール手法の類型化

アンケート調査により把握された広域景観コントロール手法について、その制度内容を類型化して全体像を明らかにする。また伝建地区および周辺地区の広域景観コントロール手法を一覧出来る図面を作図する。

(3) 地形条件と市街地形態の組み合わせによる広域景観特性の類型化

伝建地区及び周辺地区の広域景観特性について、収集した地形図及び関連計画図をもとに地形条件と市街地形態の組み合わせから類型化すると共に、類型ごとの広域景観特性の特徴について分析する。

(4) 広域景観特性の類型と広域景観コントロール手法の相関性の把握と先進事例の選択
上述の分析結果を踏まえて、周辺地区の広域景観コントロール手法の適用の現状（景観コントロールのための地区指定状況）を把握するとともに、広域景観特性の類型ごとに地区指定の傾向など分析し、両者の相関性や類型ごとの特徴と課題などについて明らかにする。また積極的に取り組んでいる地区を先進地区として選定する。

(5) 先進事例に対する現地調査

広域景観特性の類型ごとに選定した先進事例に対して現地調査（当該市町村に対するヒアリング調査・資料収集・現地におけるフィールド調査）を行い、現状の景観コントロール手法の効果と課題を明らかにする。

選択した事例は、南砺市相倉（山腹型、面・分散型）、白川村荻町（谷間型、面・連続型）、亀山市関宿（山麓型、線・連続型）、大津市坂本（山麓型、面・連続型）、橿原市今井町（平地型、面・連続型）伊根町伊根裏（海辺型（谷間型）、線・連続型）、長崎市東山手・南山手（海辺型（山麓型）、面・連続型）、雲仙市神代小路（海辺型（平地型）、面・連続型）、丸亀市塩飽本島町笠島（島型（海辺型）、面・連続型）などである。

(6) 景観法・景観条例・伝建地区を効果的に併用した新しい広域景観コントロール手法の考案

全ての分析結果を踏まえた上で、景観法、市町村景観条例、伝建地区制度、その他の関連制度の効果的な併用によって、伝建地区と周辺地区を一体的・総合的に景観コントロール出来る新しい広域景観コントロール手法について考案する。

4. 研究成果

(1) 第一に、研究対象とした79地区の重伝建地区および周辺地区における広域景観コントロール手法の現状を把握するとともに、伝建地区ごとに広域景観コントロール手法を一覧できるデータ（図面）を作成したことである。全国の伝建地区の広域景観コントロール手法を一覧できるデータは、従来、皆無であったため、これらは現状の評価や今後の見直しに向けての有益なデータの1つとして活用できると思われる。調査協力を得た伝建地区の行政担当者には、作成したデータを送付して還元している。

(2) 第二に、地形条件の類型結果（図1）と市街地形態の類型結果（図2）を確定すると共に、両者の組み合わせから広域景観特性を類型した結果、以下に示す13類型を導き出したことである。

- ①山腹型・面的街路町並分散型
- ②谷間型・線的街路町並連続型
- ③谷間型・面的街路町並連続型
- ④谷間型・面的街路町並分散型
- ⑤山麓型・線的街路町並連続型
- ⑥山麓型・面的街路町並連続型
- ⑦平地型・線的街路町並連続型
- ⑧平地型・面的街路町並連続型
- ⑨海辺（谷間）型・線的街路町並連続型
- ⑩海辺（山麓）型・面的街路町並連続型
- ⑪海辺（平地）型・面的街路町並連続型
- ⑫島（中心集落）型・面的街路町並連続型
- ⑬島（海辺）型・面的街路町並連続型










地形	山腹型		周囲を山に囲まれた開放性の高い地形であり、重伝建地区が山の中腹に位置している。	6地区	
	谷間型		山腹型と同様に山に囲まれているが、閉鎖性の高い地形であり、重伝建地区が谷間に位置している。	20地区	
	山麓型		一方に山が、もう一方に市街地が広がっている地形であり、重伝建地区が山の麓に位置している。	24地区	
	平地型		周囲に市街地が広がっており、山から少し離れた平らな地形であり、重伝建地区が市街地に位置している。	10地区	
	海辺型	谷間型		一方に海が広がっており、もう一方は谷間型と同様に山に囲まれた閉鎖的な地形であり、重伝建地区が海沿いに位置している。	2地区
		山麓型		一方に海が広がっており、もう一方に山が位置している地形であり、重伝建地区が山の麓の海沿いに位置している。	9地区
		平地型		一方に海が広がっており、周囲には市街地や農地が広がっている地形であり、重伝建地区が市街地に位置している。	2地区
	島型	中心集落型		周囲に海が広がっている地形であり、重伝建地区が島のほぼ中心に位置している。	2地区
		海辺型		一方に海が広がっており、もう一方に山が位置している地形であり、重伝建地区が島の海沿いに位置している。	3地区

図1 地形条件による類型





市街地形態	街路形態	線的街路		主に線的のびる一本の街路に沿って建築物が建ち並び、町並みを形成している。	17地区
		面的街路		面的な広がりを持つ複数の街路が存在し、その街路に沿って建築物が建ち並び、町並みを形成している。	62地区
	建物分布	連続建物		建築物が道路に沿って互いに接する形で建ち並び町並みを形成しており、視界が絞られている。	69地区
		分散建物		建築物が互いに距離を保って建ち並び町並みを形成しており、視界が開けている。	10地区

図2 市街地形態による類型

(3) 第三に、広域景観特性の類型と広域景観コントロール手法の相関性について分析した結果、13類型ごとの特徴と傾向を把握した上で、「市街地景観＋自然景観」、「市街地景観」、「集落＋自然景観」、「島の集落＋自然景観」の4類型に大別できることを導き出すとともに、類型ごとの新しい広域景観コントロール手法を提案したことである。

提案にあたり、有効と考えられる広域景観コントロール手法をまとめると図3に示す通りである。広域景観コントロール手法は、重伝建地区および周辺地区が都市計画区域内に位置しているのかあるいは区域外に位置しているかによって、2つに大別することが出来る。都市計画区域内であれば、重伝建地区の周辺地区（市街地）に対して、高度地区、風致地区、地区計画、景観地区などを運用することが可能となるが、区域外であればこれらの都市計画手法が運用できなくなるためである。

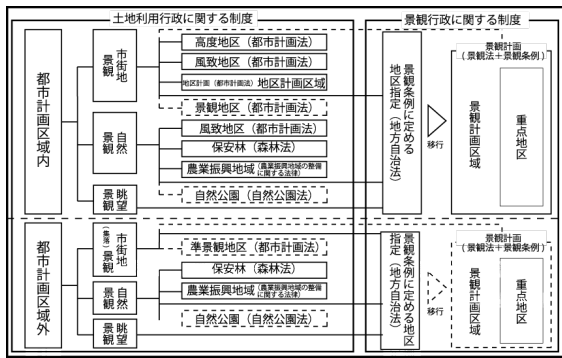


図3 重伝建地区および周辺地区における景観コントロール手法

①「市街地＋自然景観」における広域景観コントロール手法

重伝建地区の周辺地域に主に市街地が広がっており、更に周辺地域に自然景観である山を有している「市街地＋自然景観」に該当する類型は、谷間型、山麓型、海辺（山麓）型、島（海辺）型の面・連型、山麓型・線・連型の5つであり、重伝建地区数は42地区である。

基本方針としては、市街地景観については、重伝建地区と周辺地域の町並みの一体的な景観を形成するために、景観計画区域を指定するとともに、必要に応じて、高度地区、風致地区、地区計画、景観地区を指定することが考えられる。自然景観については、周辺地域の山に風致地区、保安林の地区指定が考えられ、周辺地域に農地がある場合については、農業振興地域（農用地区域）を指定することが考えられる。

②「市街地景観」における広域景観コントロール手法

重伝建地区の周辺地域に市街地が広がっており、周辺地域に自然景観を有していない「市街地景観」に該当する類型は、平地型、海辺（平地）型の面・連型、平地型・線・連型の3つであり、重伝建地区数は13地区である。

基本方針は、市街地景観については、重伝建地区と周辺地域の町並みの一体的な景観を形成するために、景観計画区域を指定するとともに、必要に応じて、高度地区、風致地区、地区計画、景観地区を指定することが考えられる。自然景観については、周辺地域に農地がある場合については、農業振興地域（農用地区域）を指定することが考えられる。

③「集落＋自然景観」における広域景観コントロール手法

重伝建地区の周辺地域の大部分が山で囲われており、市街地（集落）がほぼ重伝建地区に指定されている「集落＋自然景観」に該当する類型は、山腹型、谷間型の面・分型、谷

間型、海辺（谷間）型の線・連型の4つであり、重伝建地区数は22地区である。

基本方針としては、市街地景観については、多くの地区で市街地（集落）の全体が重伝建地区に指定されているため、新たな地区指定を必要とする地区は少ないと考えられる。周辺地域に市街地が存在する場合には、伝建地区の拡大や景観条例に基づく地区指定が考えられる。自然景観については、周辺地域の山に対して保安林を指定することが考えられ、周辺地域に農地がある場合については、農業振興地域（農用地区域）を指定することが考えられる。

④「島の集落＋自然景観」における広域景観コントロール手法

重伝建地区が海に囲まれており、市街地（集落）の全体が重伝建地区に指定されている「島の集落＋自然景観」に該当する類型は、島（中心集落）型・面・連型の1つであり、重伝建地区数は2地区である。

基本方針としては、市街地景観については、多くの地区で市街地（集落）の全体が重伝建地区に指定されているため、新たな地区指定を必要とする地区は少ないと考えられる。周辺地域に市街地が存在する場合には、伝建地区の拡大や景観条例に基づく地区指定が考えられる。自然景観については、周辺地域に農地がある場合については、農業振興地域（農用地区域）を指定することが考えられる。

(4) 第四に、広域景観特性のより詳細な把握のための補足分析として、景観特性の形成に影響を与えていると考えられる気候条件を加味した結果、気候条件としては、3つの気候要素（降水・降雪・風）が重要なることを把握するとともに、降水量では3類型（多降水量地域・中降水量地域・少降水量地域）、降雪では3類型（特別豪雪地帯・豪雪地帯・非豪雪地帯）、風では2類型（強風地域・非強風地域）、以上の3つの気候要素を組み合わせると17類型となることを導き出したことである。そして地形条件および市街地形態の組み合わせによる13類型と気候条件による17類型を組み合わせると、本研究の対象としている伝建地区は44類型に類型できることを導き出したことである。

(5) 今後の課題

伝建地区を有する自治体の景観計画策定への取り組み動向を把握し、実際に策定された景観計画の中における伝建地区と周辺地区の景観コントロール手法の位置づけを本研究で導き出した類型ごとに分析するとともに、本研究において提案している景観計画を柱とした広域景観コントロール手法との比較分析を通じてその妥当性を検証すること、さらに気候条件を加味した上で提案内容全般を深化させより実現性の高い提案とすることが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

①坂雄一郎、浅野聡、重要伝統的建造物群保存地区の保存対策調査報告書及び保存計画における気候条件の反映状況に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、掲載決定、2009年、査読無

②久保祐輔、浅野聡、重要伝統的建造物群保存地区及び周辺地域における景観形成に関連する地区指定施策に関する研究－地形及び市街地形態による類型別の分析－、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp. 741-742、2008年、査読無

〔学会発表〕(計2件)

①坂雄一郎、浅野聡、重要伝統的建造物群保存地区の保存対策調査報告書及び保存計画における気候条件の反映状況に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、2009年8月26日(予定)、東北学院大学

②久保祐輔、浅野聡、重要伝統的建造物群保存地区及び周辺地域における景観形成に関連する地区指定施策に関する研究－地形及び市街地形態による類型別の分析－、日本建築学会大会学術講演梗概集、2008年9月18日、広島大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅野 聡 (ASANO SATOSHI)
三重大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：70231892

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし